

犬の口のトラブルのほとんどは歯周病です。3歳以上の8割以上が歯周病があるというデータもあり、今やペットの犬にとって、デンタルケアは欠かせないものとなっています。

歯周病は食べ物のかすが口腔内に残ることで歯垢となり、歯垢が細菌とともに石灰化して歯石となります。歯石が歯周ポケット（歯と歯茎の間の細い隙間）に沈着し、歯茎に炎症が起こり（歯肉炎）、炎症が広がると、歯茎が痩せて歯を支えられなくなり、歯槽膿漏へと進みます。その一連の状態が歯周病です。

飼い主が気づかない間に歯

あんしん！ペットライフ

23

犬にも虫歯がある？ ①

周病が進行すると、歯の奥に膿がたまって顔が腫れたり、頬のあたりから膿が出てきたりして気づくことがあります。

【愛犬の歯周病発見のためのポイント】は、①口臭②歯茎が赤い、腫れている③歯が黄色、もしくは茶色に変色④歯がグラグラしている、抜けた歯がある⑤最近、食欲がなくなった（歯が痛い）ため）——などです。

また、歯石は細菌の塊です。歯周病が進むと心臓や肝臓など全身性の病気を引き起こすこともあります。歯周病

は予防で完全に防げますから、飼い主は歯磨きなどのケアを習慣にしましょう。

「野生で生活していた頃は歯磨きなんてしなかった」と思われるかもしれませんが、当時とは食生活が変化し、口内環境も違います。また、現代の家庭犬は口や歯を使って作業をすることが少なく、歯周病になりやすいのです。

次回は歯磨きの方法についてお伝えします。

（アニコム損保

獣医師 井上舞）